

平成 13 年度第 2 回川崎市事業評価検討委員会 記 録

日時 平成 13 年 8 月 10 日（金）

13 時 30 分から 17 時まで

場所 いさご会館 第 1、第 2 会議室

<開 会>

（川崎市挨拶）

<議 事>

1. 報 告

○第 1 回主要な意見等について

（川崎市） 第 1 回主要な意見等について説明。（委員了承）

2. 審 議

都市基盤河川改修事業（平瀬川支川）

（市） 再評価実施事業（国庫補助事業）調書等による事業説明。

（委員） 事業費、補助金の内訳は用地費が中心なのか。

（市） 8,022 百万円のうち 6,360 百万円が用地費です。

（委員） 用地費には補助が入らないのか。

（市） 用地費、工事費共に補助対象です。

（会長） 補助の割合は。

（市） 補助対象事業費の内、国費が 1/3、県費が 1/3 です。1,872 百万円は国費分です。補助対象額部分以外は、単独事業費分で、景観等の整備には単独事業費が必要となります。

（委員） どの部分が補助対象外となるのか。

（市） 転落防止施設のグレードアップや河川区域以外の残地部分の整備には単独費を投入しています。

（会長） 事業費の執行割合からすると進捗が遅いのではないかと。

（市） 当初は、準用河川の改修でスタートしましたが、平成 9 年には一級河川に格上げし事業進捗を図っています。

（委員） 事業開始時点で一級河川への昇格は見込んでいたのか。

（市） 流域面積等から判断して、一級河川への昇格を見込んでいました。

（委員） 川崎市では、計画降雨規模を全域 50mm/h r で考えているようだが、50mm 対応から 90mm 対応への見直しはあるのか。

（市） 中小河川は、国の方針により、暫定 50mm 対応を当面の目標としています。

（委員） 国の方針もあるが、気象や都市化の変化などの状況を考えると市としての対応も必要ではないか。

（市） 近年多発している都市型の集中豪雨に対して、下水道事業も含め、総合的に対応していく必要があると考えています。

- (会 長) 周辺の開発が進み浸水被害が大きくなる恐れがあるため、このままの事業期間で大丈夫なのか。
- (市) 平成 20 年度の完了を目標に進めています。
- (委 員) 単独費と補助金の関係や 50mm 対応の考え方などを当初から、わかりやすく表記していただきたい。
- (委 員) 県費補助の表示も必要。また、全体の事業が見えるような工夫も必要である。
- (会 長) 計画期間全体の事業の流れがわかるとよい。断面の一部で、河川幅が狭い部分があるが、洪水の恐れはないのか。
- (市) 50mm 対応の断面となっています。河川のカーブする箇所は水流があたるため、乗り越えないよう考慮しています。
- (会 長) 今後事業を進めていく上流部の住民は事業を認知しているのか。用地取得に支障はないのか。
- (市) 本事業は、平瀬川長沢流域協議会等により住民参加型の川づくりを進めており、関係地権者にも理解、協力を得られるよう努めています。
- (委 員) 貯留施設など遊水地のような施設を整備し、そこを親水化しては。
- (市) 現状では難しいですが、浸透貯留施設等の整備と総合的な治水対策を考えていきます。
- (会 長) 急激な都市化や近年の気象の変化による都市部特有の浸水被害が予想されることから、河川改修だけでなく貯留施設なども含めた総合的な治水対策が必要と考える。

都市基盤河川改修事業（五反田川放水路）

- (市) 再評価実施事業（国庫補助事業）調書等による事業説明。
- (委 員) 用地確保が課題となっているが、現在の取得状況はどうなっているのか。
- (市) 立坑部の用地は既に確保できていますが、トンネル部の区分地上権が難航しています。
- (会 長) トンネル施工時に事業費が集中するが、その事業費確保について教えてほしい。
- (市) 市としては起債で対応したいと考えています。
- (委 員) 世田谷町田線の道路事業との調整により、遅れた面はあるのか。
- (市) 世田谷町田線の道路区域内にトンネル部は納まるので調整による遅れはありません。
- (委 員) 全体事業費のプログラム等があると事業の進捗がわかりやすい。
- (委 員) 放水路から多摩川に放流して問題はないのか。
- (市) 管理者である国土交通省と協議しています。また、多摩川の河川計画は水系全体の水量を想定しており問題はありません。
- (会 長) 今後、河川事業について審議する場合、残事業の内容と計画について資料を提出し説明してもらいたい。
- (委 員) 多摩川の水位が上がったとき、放流できるのか。

- (市) 水位差で放流ができます。
- (会 長) 放水路の完成により、浸水被害からの軽減が図られる効果とあわせて下流域については、河川改修をしなくても、現況のまま将来計画である時間雨量 90mm まで対応が可能な河川となることも説明する必要がある。

水道事業 (工業用水道改築事業、相模貯水池大規模建設改良事業)

- (市) 再評価実施事業 (国庫補助事業) 調書等による事業説明。
- (委 員) 堆砂率を 30 年かけて 29% から 25% へと下げる。という事業内容が改善と言えるのか。
- (会 長) ほとんど毎年流入していくものを取り除くという事業であり、別の言い方をすると半永久的にやり続けてこの量を確保しなければならないという議論になる。
- (委 員) このモデル事業で何か施設を作るのではなく、こうした更新事業で補助を受けることについて考えなければならない。国から補助を受けていくのか、受益者負担として水道料金に転嫁してやるべきなのか。また、国庫補助が入ると他県へ分水せざるを得なくなる可能性もありうるがどうなのか。
- (市) 受益者負担とすると水道料金の値上げにもつながりかねないので、なるべく水道料金へ転嫁しないよう補助を受けるという考え方です。
- (委 員) 費用便益の計算は、あくまで川崎市の費用で計算をしているのか。
- (市) 工業用水については、川崎・横浜がそれぞれ単独事業を持っているので、経済産業省の示した計算方法で個別の評価を行っています。上水については、4 事業者が統一した内容で提出しています。
- (委 員) 工業用水道改築事業の個別事業と相模大規模事業はどういう関係なのか。
- (市) 改築事業の貯水工事が相模大規模事業の部分です。
- (委 員) 送水工事の 1 号送水管補強というのは布設替なのか。
- (市) 伸縮部から漏水が起きているため、伸縮部を外側、内側からカバーバンドをかけて補強するものです。
- (委 員) 相模湖からの水量というのは、川崎市の水源全体の何% を占めるのか。
- (市) 上水が 7 割、工業用水が 5 割位です。
- (委 員) 工業用水の料金体系はどうなっているのか。
- (市) 利用料だけ水道料金をもらうということではなく、責任消費水量制となっております。
- (会 長) 相模大規模事業の補助金をもらうことについては、各事業者の中でニュアンスの違いがあるのではないかと。
- (市) 県下の各事業者は同じ水源を求め、同じように安定給水を確保する目的をもち、なるべく水道料金に跳ね返らない方法をとるために補助金をいただくということで歩調は統一されています。
- (会 長) 県内の事業者にとって、宮ヶ瀬の負担に加え相模の負担もあいまって、重い負担ですね。

- (委員) 事業を進めるにあたって、短期集中的に浚渫する方法や、代替案の検討はされているか。
- (市) 短期間で行うとなると浚渫土砂処理の問題や、地元との騒音・環境問題の処理などについて検討する必要があります。また、土砂を処分するのに時間と費用がかかり交通量や騒音対策等を含め現行の手法がベストと考えます。なお、利水局では、10年間の実績を踏まえた上で、将来的に技術的な革新があれば、別の方法に乗り換えることを視野にいれて進めております。
- (会長) 全国では、堆砂で埋まったダムがたくさんある中で、このような維持管理事業をどう進めていくのか、という意味でこのモデル事業に大変関心をもっている。
- (委員) B/Cが1.6というのは、高い数字なのか標準的なのか。ここに挙げられた便益だけでも1.6になるわけで、他にも考えられる便益を入れればもっと高くなる。工業用水にしても最低限の現状維持を前提にした計算で便益がこの数値になるわけだし、横並びで比較するのが難しいですね。
- (委員) 貯砂ダムが遅れている理由は何か。
- (市) 山梨県との協議や地元の要望事項が多いため調整に時間を要しています。
- (委員) 地元の要望とは何か。
- (市) 貯砂ダムを作るにあたっての条件や要望です。
- (委員) ダムが重要なものであることは理解するが、その必要性については、市民に分かりやすく伝えることが必要である。
- (委員) ダムの貯水容量を安定的に確保するため、長期的、継続的に土砂を除去する事業であることは理解できる。今後については、そのプロセスで新しい技術動向を踏まえより効果的な方法を検討する必要がある。
- (委員) 水源確保に際し、ダム浚渫の費用負担のあり方、事業期間の設定の仕方について、関連自治体は、共同で合理的な方式をつねに検討していく必要がある。

審議結果について

- (会長) 対象となる7事業を調書に基づき審議をおこなってきたが、対応方針案どおり継続として判断してよろしいでしょうか。(委員了承)
それでは、他の議事ということで事務局より説明願います。

審議資料の公表について

- (市) 第1回、第2回開催概要の公表について説明。
- (会長) 各委員の皆様、他に何かございますか。
なければ本日をもって、平成13年度事業評価検討委員会を終了いたします。
ありがとうございました。

<閉会>

(川崎市挨拶)